

# かき氷の達人

**私**の趣味は、かき氷である。しかも夏限定ではない。一年を通じて食べ続け、店に行けば一回につき二杯が基本だ。片方は定番、もう片方は冒険枠。同じ店でも二杯食べることで、その店の思想や技術の幅が見えてくる気がする。

2025年に食べたかき氷は、ちょうど100杯。価格帯は一杯1,000円から4,000円まで幅広い。気軽な一杯から立派な嗜好品まで含めて、かき氷はすっかり生活の一部になった。暑い日も寒い日も関係ない。むしろ冬のかき氷は、気温が低い分、溶けにくく、ひと口ごとに落ち着いて美味しく味わえる。

先日、奈良出張では、氷の神様を祀る氷室神社に初めて参拝した。近くに大仏殿があるにもかかわらず、私が足を運んだのは氷室神社だけ。二日間の出張中、仕事の合間を縫って合計5杯。土地の空気と一緒に味わうかき氷は、記憶への定着率が高い。

また、娘の受験で札幌に同行した際にも、子どもが試験を受けている時間に、近くの店でかき氷を楽しんでいた。かき氷店へ向かう雪道で滑って転ぶというおまけ付きだったが、「私が先に滑っておいたから大丈夫」と思うことにした。結果、娘は見事合格し、今では良い思い出である。

一方で代償もある。健康診断でLDLコレステロール値の上昇を指摘され、「やはり来たか」と思った。甘味の蓄積は正直だが、ここでやめる選択肢はない。歩く距離を増やしつつ、付き合い方を調整中である。

2025年6月の愛知での学術集会では、本当は「名古屋のかき氷 Map」を作成して参加者の皆さんに共有したかった。そんなことを考えてしまうのも、毎年、全国各地で開催されるJACR学術集会で、せっかくその土地に行くのなら、その土地ならではのかき氷も味わいたいと思っているからだ。真面目な議論の合間に、良い氷との出会いがあれば、学会の記憶はもっと豊かになるはずだ。かき氷への熱量は、研究やがん登録への熱量と同等——いや、ひよっとするとそれ以上かもしれない。

(写真は私のInstagramの一部。好きなかき氷と、富士山と、ペットの犬の投稿ばかりの非公開アカウント)



伊藤 秀美  
愛知県がんセンター研究所 / JACR 理事

